

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は26日、初の完全ペーパーレス会議として常任理事会を開いた。写真。出席した正・副会長、支部長が協議事項や報告関連の資料をタブレット端末で閲覧しながら、議事に臨んだ。群馬県発注の建設キャリアアップシステム（CCUS）モデル工事の説明を受けた。定時総会を5月21日に開催することを決めたりした。今後の理事会をペーパーレスで行うという。

新型コロナウイルス感染症と向き合いながら、協会活動をデジタル化する取り組みの一環。冒頭あいさつ

常任理事会を完全 ペーパーレスに 群馬建協、デジタル化推進



した青柳会長は「（感染症で）人の動きがほとんど止まっているような気がして懸念した。2021年度も災害対策関係の予算執行が想定されることも説明し

た。その上で「タブレットのペーパーレス会議。試行錯誤を繰り返しながらのスタートになる。年度末に向かって決めごとが出てくるので審議をよろしくお願ひする」と協力を求めた。

常任理事会の議事は▽県のCCUSモデル工事▽関東地方整備局とのテレビ会議▽21年度会費▽21年度総会―など。高校との懇談会の自粛や支部活動の報告なども行い、タブレット端末を操作してもらいながら議事を進めた。これまで理事会では7〜8種類、約40枚の紙の資料を参加者それぞれに提供していたという。